

紅葉の鎌倉、切通～衣張山の旅!

●「紅葉の鎌倉」を歩き通して!

昨12月2日(日)の**湘南浦高会主催**の日帰りハイキング「**紅葉の鎌倉を歩く**」の続きです。名越の切通を目指して歩きます。



下図「**名越切通案内マップ**」にあるように、名越切通には3カ所の切通があります。上の写真が第3の切通です。第2、第1とその険しさが窺えます。



◆**名越切通(なごえきりどうし)**: 名越切通は、まるで鎌倉時代の古道の雰囲気を残しています。この切通は、昔は衣笠の三浦一族や房総の御家人の鎌倉往來の道で、**鎌倉七口**の切通の一つです。鎌倉防衛の要塞でもありました。切通はおもに中世、鎌倉

が政治経済の中心だった時代に整えられました。人や物の流れを良くするだけでなく、鎌倉に外敵が侵入するのを防ぎ、戦闘を有利にするための工夫も施



されたそうです。「名越切通」は、『吾妻鏡』の天福元年(1233)8月の豊条に「名越坂」として登場するのが最初。鎌倉から三浦方面に通じる要路で道が険しく

難路であったことから「難越(なごし)」から「名越(なごえ)」という名になったと言われる。国指定史跡。【鎌倉七口】「極楽寺切通」「大仏切通」「仮粧坂切通」「亀ヶ谷坂切通」「巨福呂坂切通」「朝夷奈切通」「名越切通」【写真は第1の切通、右は逗子市方向から見上げる、左は上から道を見る】



鎌倉には紅葉、寺社仏閣などの見学、そして切通を含めたハイキングコースなど、さまざまな楽しみ方があるようですが、この日のハイライトは中世の遺構「**名越切通**」と「**まんだら堂やぐら群**」でしょう。第2切通まで戻って「まんだら堂やぐら群」に登り、逗子市のガイドさんからお話を伺いました。





◆**まんだら堂やぐら群**：やぐらとは、丘陵山腹を穿って作られた仏堂的横穴墳墓で、鎌倉の周辺で鎌倉時代中期以降から室町時代前半にかけて作られ、または使用された横穴式の納骨窟または供養堂である。



中世都市鎌倉は山に囲まれているがゆえに、発展するとともに土地が手狭になり、幕府は都市の三方を囲む丘陵内部には墳墓があつてはならないというお触れを出した。これにより、墳墓は周辺の丘陵に掘った横穴へと移っていった。これが「やぐら」である。鎌倉地域の丘陵の

岩質が「凝灰質砂岩」であるため穿ちやすかったというも広まった要因である。「まんだら堂やぐら群」は、名越切通の最高部から更に上がった尾根の南西斜面を推知欲に切り落として穿たれた150穴以上のやぐら群で、3~4段構造の横穴が約100mにわたって造営されている。文献上「やぐら」という語が出てくるのは『新編鎌倉志』（江戸時代の地誌、貞享2年(1685)に刊行)の十二所ごぼう谷の項に「寺の南西に山あり、切り抜きの洞二十余りありて・・・谷にくらがりやぐらと云ふ。総じて鎌倉の俚語（俗語、方言）に巖窟をやぐらというなり」とあるのが最も古い。

事前学習では、ここの価値が分からない。やはり現場を見学して、説明を伺うことで学べるものですね。当初は「吉見の百穴」をイメージしていましたが、穴の中に五輪塔などが置かれていて、供養のために作られた穴だということが分かります。非常に神秘的な遺構です。鎌倉時代まで埋葬は決められた場所で行われ、寺院に埋葬されることはなかったようで、こうした丘陵や谷に埋葬されたそうです。

さて、次は第3切通に戻って道を上り、12時を過ぎて「お猿島の大切岸」に向かいます。

◆**お猿島の大切岸**
(おさるばたけのおおきりぎし)：「お猿島」とは日蓮の伝説による地名。鎌倉時代の中頃、日蓮は名越の麓の松葉ヶ谷に草庵を構えて布教活動を開始したが、他宗派を批判したため、浄土教の念佛者たちにより草庵が焼き討ちにあった。この時に白猿が現れ、日蓮を裏山に避難させた。その場所を「お猿島」と呼ぶ。一方、「切岸」とは山城などでの侵入を防ぐための人工的な崖のことで、ここ「大切岸」は長さ800mにわたって、高さ3~10mの切りだった崖が尾根に沿って連続している。従来、鎌倉幕府が三浦一族からの攻撃に備えるために築いた防御遺構だとされていたが、発掘調査の結果、「石切り場」の跡であったということが濃厚となった。



12時半を過ぎてだいぶお腹も空きました緑地への入り口には可愛らしい道祖神が置かれていましたが、石の風化などを見ると時代はだいぶ新しいもののようです。やがて右手に住宅街と左手に緑地が見えてきました。いよいよこの「浄明寺緑地」で昼食です。



◆**浄明寺緑地**(じょうみょうじりょくち)：浄明寺緑地は、1970年代に西武グループが山林を大々的に開発して分譲開始した住宅地「鎌倉凶示ハイランド」に隣接する緑地。住宅地の人々や、ハイカーの憩いの場所。



昼食はそれぞれが持参した弁当です。私は鎌倉駅前で購入したおにぎりを3個、歩いた後のおにぎりは格別の味でした。

◆最終の「衣張山」目指して！

13時15分、「衣張山」を目指して再スタートです。山道の手前に「衣張山 25分」の表示を見てホッと。



◆**パノラマ台**：パノラマ台は衣張山一名越切通を結ぶハイキングコースにあるビューポイント。晴れば江ノ島、富士山も。

さらにひと峰を越えると「衣張山・山頂」です。朝から続いた曇天でしたが、この時間は多少晴れ間も覗いて稲村ヶ崎と江ノ島を望むことができました。

衣張山（きぬはりやま）：鎌倉市街の南東部、展望



が素晴らしい鎌倉らしさを感じさせる山。標高120.2mは鎌倉で5番目に高い山。(1.大平山159.2m、2.六国山147.4m、天台山141.4m、4.鷲峰山127.9m、5.衣張山)。衣張山の山名の由来は『新編相模国風土記稿』によれば、「衣掛山といい、昔ここに庵があり、尼僧が松の木へ衣を掛け晒した」という説と、夏の日に源頼朝が妻の北条政子の望みで、この山に白衣を張って、雪の降った景色を見せたという説がある。山頂からの展望はすばらしく、眼下に鎌倉の市街が一望でき、由比ヶ浜のカーブと相模湾が美しい。



13時35分、これから下りに入ります。石段のある下り坂もあるのですが、登りと下りでは膝や腿にかかる負担が違うようで、踏ん張れないものです。ガイドの坂本様を選ばれた道はショートカットとのことでしたが、結構急斜面で滑り落ちないように気を付けながら歩きました。「石切り場跡」へ。



石切り場跡：鎌倉における石切り作業は鎌倉時代から近現代に至るまで地元の大きな産業の一つとして盛ん



に行われていました。近世では江戸城構築における石材として鎌倉地産の石が切り出され運ばれていたそうです。

天井高さ4m程度の「石切り場跡」を後に「平成巡礼道」を下ります。途中には五輪塔や道祖神も。



14時やっと下山しました。200m程度歩くと「田楽辻子のみち」へ出ました。



坂本様から最後の説明を伺いました。

田楽辻子（でんがくずし）のみち：滑川に架かる大御堂橋の文覚上人屋敷跡から報国寺に至る道。二代執権北条義時の菩提を弔うために三代執権北条泰時が建立した「釈迦堂」前に田楽師が住んでいたことからこの名がつけられたという。北条義時は、田楽にうつつを抜かして政治を疎かにしたため、後鳥羽上皇から北条義時追討の宣旨が全国に発布され朝敵となるも、幕府軍は京都に攻め上り、朝廷を制圧（承久の乱）したとのこと。

杉本寺【写真右】を横目に眺めてバス停へ。バス2台が満車で乗れず、鎌倉駅まで歩くことにし、15時過ぎから懇親を深めながら美味しいお酒と料理を堪能しました。全行程8キロ強、感謝、感激で《完》！

